

平成22年度第2回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

日時：平成23年3月18日（金）午後2時～

場所：愛知県立大学学術文化交流センター 多目的ホール

出席者：委員10名（代理含む）、事務局（愛知県地域振興部長、沿線市町担当部課長他）

開 会

1 あいさつ（愛知県地域振興部長）

リニモは、万博閉幕後に落ち込んだ利用者数が着実に増加しており、平成21年度からは営業収入で運行経費を賄うことができるようになった。多くの方々の支援・協力の賜物である。

本日は、地域づくりの取組状況の報告に加え、沿線大学の学生による地域づくり活性化事業の報告を予定している。沿線の地域づくりは、地元地域の方々や若い方の力が不可欠であり、ともに地域づくりを進めていきたいと考えているので、忌憚のない意見を頂戴したい。

2 議題

(1) リニモ沿線地域づくりの状況について

（事務局から資料1-1～8を説明）

(2) 「学生によるリニモ沿線地域づくり活性化事業」の成果報告について

（各大学の学生から資料2-1～4を説明し、その後、意見交換）

【委員及び事務局からの主な発言】

- 学生の発表の中で、地球市民交流センターでイベントを行う際、事前準備がやりにくかったと言っていたが、公園管理者の対応はどうなっているのか。
また、発表の中で、2,000名の参加者を想定していたのに、約500名の参加者になってしまったことに対する反省点を聞かせてほしい。
あと、モリコロパークでロボットのイベントを予定していると聞いたが、県のバックアップ体制を聞きたい。
- 通常、我々が行うイベントでは、前日に機材を搬入するが、今回のイベントでは当日に機材を搬入したため、開始時間に間に合わなかった。当日にしか搬入できなかったことが、準備をやりにくくした。
- 県がポップカルチャーのイベントを行った際も使い勝手の悪い部分があったが、前日の準備は可能であった。前もって相談すれば、対応してもらえる。地球市民交流センターを管理している愛知県都市整備協会としても、改善を重ねているところである。
ロボットのイベントの話は、公園緑地課の方で聞いているようだ。詳細は分からないが、そちらの方で対応すると聞いている。
- 東静岡駅の前で18mのガンダムが来て、子供に大人気であった。リニモに乗れば、ガンダムに触れられる等の特典があると面白い。
- 「リニモやロボットで楽しもう！」の事業では、35,000枚のチラシを作ったようだが、目標参加者数2,000人の効果は無かった。宣伝活動としては良いが、チラシの効果は新聞配達等で実証済みである。イベントを通して、マーケットリサーチの勉強になったと思う。

イベントの中身は面白く、目標参加者とのギャップはあったものの、約 500 人もの参加があったことは凄いことである。

- 「健康スイーツによるリニモ沿線の地域活性化」事業について、真菜と米粉をテーマに選定した理由を教えてください。また、今後どういう形で地域の活性化として進めていく予定であるか教えてください。

新しいスイーツを作っていくとあるが、事務局も相当バックアップしていかないと継続できない。お店との連携もどのように進める予定なのか聞かせてほしい。

- 真菜は、長久手の地域野菜であり地産地消の推進に繋がると思った。その一方で、真菜の認知度が低いため、認知度を高めたかった。

米粉も、長久手町がイベント等で推進しているにも関わらず、認知度が上がらない現状であり、米の食料自給率が減少している問題も合わせて解決できればと思った。また、国が米粉を積極的に推進していることも、選定した理由の一つだ。

現在、真菜をパウダーにして、長久手町内外のスイーツ店に、我々や長久手町役場の方たちと持っていき、新商品の開発をお願いしているところだ。

- 長久手町は、平成 14 年度から田園バレー事業という農を起用したまちづくりを進めている。ただ、農業の活性化は厳しい状況であり、長久手町にはこれといった特産物が無い状況。その中で、真菜に目をつけた。真菜をパウダーにして、それをスイーツ等に転用できないか検討している。どのように流通の仕組みを構築するかが課題であるが、名古屋商科大学の学生と一緒に事業を進めている。

- 商工会の食品部会に相談して、レシピを作ってもらい、商工会のメンバーたちに賛同を得て、それぞれのお店に置いてもらい、真菜、米粉のスイーツの店と認定してみようか。

学生の動きを地域の生産者や商工会等と連携させると良い。

- 平成 23 年 3 月 26 日に瀬戸しなの「道の駅」がオープンする。今朝も米粉の商品の試食をしてきた。米粉のうどんやパンをウリとしている。学生の成果を興味深く聞かせてもらった。全国の中でも米粉商品のレベルが高いエリアになれば良い。

また、「リニモ及びリニモ沿線地域の情報案内アプリケーション配信」事業のような仕組みを瀬戸市に取り込んで、せとまるっとミュージアムの回遊性を高めたい。今年行われる瀬戸物祭りは 80 周年記念になる。瀬戸市の目玉のイベントとして考えているが、情報発信がなかなか難しい。IT 社会になったが、自分から情報を取りに行かないとなかなか情報は入ってこない。我々が情報発信しても、瀬戸市外には情報が出て行かない。お金をかけずに、情報発信する方法を検討しなければいけない。リニモ沿線等の周辺区域と交流を促進しながら、瀬戸市の観光を活性化していきたい。

- 学生の考えた仕組みが、リニモ沿線の情報発信のベースになると良い。

- モリコロパークは、愛知万博で使ったロボットが残っており、ロボットの魅力を発信できる素晴らしい場所である。これらを活かして、東海エリアから集客できる場所である。

- リニモを利用して、公園に足を運んでもらうことが必要だ。リニモ公園西駅の近くにあるモリコロパークのこどものひろばは、観覧車があるだけで寂しい状況。行政での整備が難しいので、企業による整備を検討している。近々、報告書を公表予定である。

ロボットについては、モリコロパーク周辺をロボット特区にすると、知事もマニフェストで言っている。何をすべきか、県の方でも検討していく。

- 長久手町で農業をやりたいという学生が多い。農業に関する地域活動は、チラシ 200 枚を配ると 20 人は集まる。大半は女子学生である。

また、退職してから農業をやられる方が多いが、収穫した農作物を売ることができない。収穫した米でもちつきを行う等、コンセプトが決まっていると目的意識を持って農作業に取り組める。愛知淑徳大学の学生が行ったもちつきにより、学生と地域住民との繋がりができた。

あと、昨年度の学生提言でもあったが、リニモ長久手古戦場駅に学生の活動拠点ができると良い。
- 長久手町の説明にもあったリニモテラス構想の中で、そのような活動拠点ができると思う。大学周辺に田園があるのはメリットである。農作業は、健康にもよい。このような活動が、もっと発展すると良い。
- 新しい環境共生型のまちづくりを進める中で、長久手のTNPプロジェクトのような、リニモ沿線全体を表すキャッチコピーがあるとよい。

あと、ICカードの導入については前向きに検討してもらいたい。マナカについては、お金の問題でリニモには導入されていないが、いつかは機械を変えるタイミングが来る。改札のシステムは非常に巨大なシステムである。導入したいと思っても、直ぐに導入できるものではない。今後の検討課題として、今のうちから、前向きに検討しておく必要があると思う。
- リニモと愛知環状鉄道については、マナカを導入していない。非常に多額の経費がかかり、会社の経営体力的に導入できなかった。今後の検討課題としたい。

トランパスが1年で使えなくなる。利便策として、平成23年2月から回数券を発売しており、平成23年6月からはプレミアムを付けたリニモカードを発売する予定である。
- ICカードの導入については、前向きに検討してもらいたい。

昨年は、大学の協力の下、リニモ駅からのシャトルバスを開始してもらえた。8月と2月に利用客が減る。最大顧客である学生を大切にしていかなければいけない。

3 その他

来年度も継続して会議を開催予定

(以上、文責事務局)